

令和3年度 北信教育事務所・長野市教育委員会
合同指導主事研修会

社会科学習指導案

指導者 北信教育事務所学校教育課指導主事 内川 啓 先生
日時 令和3年4月28日(水) 第2校時
授業学級 1年D組(40名)
授業会場 1年A組教室
単元名 「ラーメンを通して捉える、世界各地における人々の生活」
授業者 百田 美希

I 本校全体の研究

- 1 目指す生徒の姿・・・・・・・・・・・・・・・・社1
- 2 全校研究テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・社1
- 3 研究の重点・・・・・・・・・・・・・・・・社1
- 4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ・社2

II 社会科の研究

- 1 学習・・・・・・・・・・・・・・・・社3
- 2 単元の目標・・・・・・・・・・・・・・・・社3
- 3 単元の評価規準・・・・・・・・・・・・・・・・社3
- 4 社会科として、全校研究テーマに迫るための仮説・・・・・・・・社3
- 5 単元展開・・・・・・・・・・・・・・・・社3

信州大学教育学部附属長野中学校 社会科

研究者 百田 美希 武井 正樹
山戸 規貴 富田 武

I 本校全体の研究

1 目指す生徒の姿

学びを拓いていく生徒

2 全校研究テーマ

学びの本質に迫る学習の在り方

3 研究の重点

- (1) 問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする。(重点1)
- (2) 学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする。(重点2)

昨年度までの成果と課題から、本年度は、目指す生徒の姿を「学びを拓いていく生徒」とし、研究を進めていくこととした。「学びを拓いていく生徒」とは、①「各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒」と②「①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒」と、捉えている。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の第 1 章総説には、「これからの時代を生きる生徒は、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と示されている。

このような力を育成するためには、中学校において、生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて、各教科等の資質・能力の育成につなげていくことが求められている。「見方・考え方」そのものは資質・能力に含まれるものではないが、各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、各教科等の学習と社会とをつなぐものである。また、本校では、学習の基盤となる資質・能力のうち、「問題発見・解決能力」が、生徒の生涯にわたる学びの基盤となるものと考え、研究の重点 1 を「問題発見・解決の過程において、各教科等の『見方・考え方』を働かせることができるようにする」と据えた。

各教科等で身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていくことができるようにするためには、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するなど、生徒が各教科等の学習の有用性を認識していく必要がある。そこで、研究の重点 2 を「学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする」と据えた。「学んだこと」だけではなく、「学んでいること」を付け加えたのは、単元や題材の学習において、「何のためにこの学習を行っているのか、そこにはどのようなおもしろさや社会とのつながりがあるのか」などを、生徒が自覚することで、学ぶことに興味や関心をもち、粘り強く取り組む中で、自己の学習を振り返って、次につなげるなど、生涯にわたって学び続けることにつながるのではないかと考えたためである。

各教科等の「見方・考え方」を働かせて、資質・能力を身に付けていくことが「各教科等の本質」であるとするならば、各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくことを「学びの本質」と捉える。そこで、「学びを拓いていく生徒」を育成するために、全校研究テーマを「学びの本質に迫る学習の在り方」と据え、研究を進めていくこととした。

4 各教科等での育成を目指す資質・能力と各教科等の研究テーマ

各教科等の資質・能力を育成するため、本年度の各教科等の研究テーマを下記のように決め出した。

各教科等	各教科等で育成を目指す資質・能力	各教科等の研究テーマ
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力	文章を読んで理解したことなどに基づいて、自分の考えを形成する力を高める学習の在り方
社会	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎	社会に見られる課題の解決に向けて公正に選択・判断する力を高める学習の在り方
数学	数学的に考える資質・能力	結果や解決の過程を振り返って考える力を高める学習の在り方
理科	自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力	観察、実験の結果を分析して、解釈する力を高める学習の在り方
音楽	生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力	感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりする力を高める学習の在り方
美術	生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力	主題を生み出し豊かに発想し構想を練る力を高める学習の在り方
保健体育	心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力	運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わおうとする力を高める学習の在り方
技術・家庭	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力	社会や生活課題について多面的に検討し、最適な解決策を考える力を高める学習の在り方
英語	簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力	目的や場面、状況等に応じて、やり取りする力を高める学習の在り方
道徳	よりよく生きるための基盤となる道徳性	自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、道徳的心情を育むための学習の在り方
総合	よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力	問題解決的な活動を発展的に繰り返す力を高める学習の在り方
特別活動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して身に付ける資質・能力	学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決する力を高める学習の在り方

Ⅱ 社会科の研究

1 学習：世界各地における人々の生活の特色を捉える学習

2 単元の目標 ※【 】内は、学習指導要領との関連を指している

(1) 知識及び技能【B(1)ア(7)】

人々の生活は、その生活が営まれる場所の気温や降水量などの自然的条件及び、宗教や歴史的背景などの社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解することができる。

(2) 思考力、判断力、表現力等【B(1)イ(7)】

世界各地で開店するラーメン店が、そこに住む人々に受け入れられるようにするために、「ラーメンの食材」と「店舗の造り」をどのように工夫したらよいか、人々の生活が営まれる場所の「自然環境」と「文化」に着目して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に各地の人々の生活の特色を、主体的に追究しようとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然的条件及び、社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。	思 人々の生活が営まれる場所の「自然環境」と「文化」に着目して、世界各地の人々の生活の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	態 世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野に、各地の人々の生活の特色を、主体的に追究しようとしている。

4 社会科として、全校研究テーマに迫るための仮説

(1) 重点1に関わる仮説

「単元の追究課題」を設定し、世界各地の「気候」「食文化」「宗教分布」などの必要な情報をまとめた「リサーチシート」を基に、そこに住む人々に受け入れられる「ラーメンの食材」と「店舗の造り」を検討する展開を位置付けることで、人々の生活が営まれる場所の自然的条件と社会的条件とを関連付けて、世界各地における人々の生活の特色を捉えることができる。

(2) 重点2に関わる仮説

単元の学習問題に対する答えをまとめた後、さらに別の場所に出店するラーメン店について自分で資料を探してレポートにまとめる活動を位置付けることで、本単元で学習したことの有用性を自覚し、今後の地理の学習に活用していこうとすることができる。

5 単元展開

全7時間扱い 本時は第5時

段階	◆学習 ○…「評定に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」		評価の観点	時間
	教師の指導・支援	予想される生徒の反応		
導入	◆世界各地における人々の生活は、地域によって様々であることを捉え、単元の見通しをもつ。		● 態 (観察・ワークシート)	1
	・世界各地で販売されているカップ麺を紹介し、気付いたことや疑問に思ったことを出し合う。	ア カップ麺は地域によって、スープの味付けや使われている具材が違っていたり、麺の長さやスープの量が違ったりしているのはなぜだろう。 イ 暑い地域には食欲増進のため辛い食べ物が多いと聞いた。日本では箸を使うが、世界にはフォークで食べることが習慣となっている人々もいるため、麺が短いのかもかもしれない。場所によって人々の生活が違うため、様々な特徴のカップ麺があるのではないだろうか。		
	・アやイのような反応から、単元の学習問題「世界各地の人々の生活が、場所によって異なるのはなぜなのだろうか。」を設定する。	ウ 場所によって気温や降水量、植生などが異なるため、人々はその場所の自然環境に適応した生活を送っているはずだ。また、宗教によって考え方や生活の習慣も異なると思うので、世界各地の人々の生活が、その場所の自然環境や文化からどのような影響を受けているのか調べたい。		

展開	◆「単元の追究課題」を解決していく過程で、世界各地における人々の特色を理解する。 【単元の追究課題】あなた達は、世界各地でラーメン店を展開します。出店するのはイタリア、ロシア（シベリア）、サウジアラビア、フィジー、ペルーの5か国のいずれかです。それぞれの場所の人々に受け入れられるラーメン店にするために、その場所で手に入る食材を使い「その国の人々にとって食べやすい『ラーメンの食材』（麺・トッピング・スープ）」と『店舗の造り』を提案してください。 ・ウのような反応から、世界各地の人々の生活が場所によって異なる理由を捉えていくために、「単元の追究課題」を提示する。 ・「単元の追究課題」を解決するためにどのようなことを調べる必要があるか、全体で確認する。	エ どのようなお店を出店するのかを考えるのは面白そう。地図を見ると5か国は世界各地にあり、それぞれの場所に合ったラーメンを考えることで、人々の生活が異なる理由を知ることにつながっていきそうだ。 オ 暑い場所か寒い場所かによって「店舗の造り」の工夫も必要だから、気温や降水量を知る必要がある。 カ 宗教がその場所の食文化に影響を与えていると思うから、その分布を調べたらよいのではないかな。	● 思 (観察・ワークシート)	4 (本時は第4時)
	・オやカのような反応から、学習課題『『気候』『食文化』『宗教分布』などの必要な情報を『リサーチシート』にまとめよう。」を据え、資料を読み取るように促す。 ・それぞれの生徒が出店する場所を提示し、「単元の追究課題」の解決を図るように促す。	キ サウジアラビアは、夏は40度を超える乾燥した国で、雨が降らない。シベリアは、冬の寒さが厳しく気温は-10度を下回る。どちらの国も植物の栽培には向かない地域で、麺の材料となる小麦も米も栽培が難しそう。西アジア周辺だけではなく、アフリカにもイスラム教が分布していることが分かった。 ク 気候や植生、宗教などからサウジアラビアでは、どのような「ラーメンの食材」と「店舗の造り」がよいか考えてみたが、友の考えも聞いてみたい。	● 知 (ワークシート)	
	・クのような生徒の反応から、学習課題『『リサーチシート』を基に、『ラーメンの食材』と『店舗の造り』をグループ毎に検討しよう。』を据える。 ・同じ場所に出店する4人でグループを作り、「ラーメンの食材」と「店舗の造り」を検討する。 ・検討している「ラーメンの食材」と「店舗の造り」について、各グループが大事に考えていることを踏まえて発表するように促す。	ケ サウジアラビアでは、現在小麦はほとんどが輸入に頼っている。その国で生産しているものではないから、使わない方がいいと考えていたけれど、主食として小麦を食べる習慣があるのだから使ってもいいというAさんの考えを聞き、納得したので、麺には小麦を使おう。 コ イスラム教の国なのでトッピングのチャーシューは豚肉を使えないが、羊肉や鶏肉、ラクダも食べているそうだ。店舗は男女別に食べられるように店内を分けたい。 サ 人口のほぼ100%がイスラム教のサウジアラビアに出店するので、人々に受け入れられるために宗教のことを最も大事に考えて検討した。宗教上使えない食材や戒律に配慮して、「ラーメンの食材」や「店舗の造り」を考えた。	8分 27分 15分	○ 思 (観察・ワークシート)
終末	◆単元を通して、学んだことやさらに追究したいことを明らかにする。 ・前時のグループでの話し合いを踏まえ、「単元の追究課題」についての提案をまとめる場を設ける。 ・他の場所のラーメン店を検討した友と、まとめたことを発表し合った後、単元の学習問題に対する自分の考えをまとめるように促す。 ・ワシントンで出店するならばどのような「ラーメンの食材」と「店舗の造り」にするか、必要な資料を自ら探し、レポートを作成するように促す。	シ サウジアラビアは輸入が多いが、主食となっているため、麺には小麦粉を使う。普段は手を使って食べる文化のため、フォークで食べやすい縮れ麺にしたい。イスラム教の国なので、豚を使わず、出汁やチャーシューにはラクダ肉を使う。イスラム教の戒律を守るため、店舗内部は男女で分ける区切りを作る。 ス どの場所も、気候や地形などの自然環境に対応して伝統的な生活を作り上げていた。また、歴史や宗教によって形作られた価値観や生活習慣によって、その場所に合った生活文化が見られるのだと思う。「自然環境」や「文化」が異なることで、世界各地の人々の生活に違いが生じることが分かった。しかし近年は、食材を輸入するなど、他地域との交流が盛んになったことで、伝統的な生活に変化が見られることも分かった。 セ chrome book で調べると、ワシントンの周辺では放牧が盛んで、牛肉の消費量も多い。「ラーメンの食材」としては牛肉を使えばよいと思う。また、アジア系の人が多く住んでいるので、「店舗の造り」としては、日本の建築を生かしたものにしたい。次に学習するアジア州も「自然環境」や「文化」、「他地域とのつながり」に着目すると、その特色が見えてきそうだ。	○知 (ワークシート) ○態 (観察・ワークシート) ○思 (観察・ワークシート)	2